「カイロスーかけがえのない時を大切にー」

2025 年 1 月 26 日

日本聖公会八戸聖ルカ教会
管理牧師　司祭　ステパノ　越山　哲也

新しい年が明けたと思いましたらあっという間に1月も下旬を迎え、2月を迎えようとしています。1月は「いく」、2月は「にげる」、3月は「さる」と言われます。どの月もあっという間に過ぎていってしまうことを例えた表現だと思いますが本当にそうだなと実感しております。

子どもの頃はもう少し時間がゆっくりと流れていたように思うのですが、今では1月、2月、3月に限らず1年があっという間に過ぎていく実感があります。堅信受領者総会を開催する時期となり資料を準備するために1年を振り返るととても大切な「時」を紡いできたのだと改めて思わされています。そしてその一つ一つが大切なかけがえのない時であったのです。

「時」について皆さんと分かち合いたいと思います。

古代ギリシア語で「時」を表す言葉は「クロノス」と「カイロス」の2つです。「クロノス」は時計やカレンダーで計れる「量的な時間」（1時間は60分、一日は24時間、1ヶ月は30日間など）です。それに対して「カイロス」は計ることのできない、かけがえのない「質的な時」、「適切な時」といった意味合いがあります。

聖書には「時」について多くの箇所に、カイロスが用いられています。例えば、新約聖書ではマルコによる福音書第1章15節に「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて、福音を信じなさい。」旧約聖書では、コヘレトの言葉3章1節に「天の下では、すべてに時期があり　すべての出来事に時がある。」とあります。これらの「時」はすべてカイロスであることに注目したいと思います。そして、すべて神さまが定められた「時」の深い意義が示されています。

私たちの多くは、日々を次から次へと、こなしながら、クロノスの概念ばかりに従って日々を過ごしがちです。私自身大いに反省しています。だからこそ、皆さんと一緒に顔と顔を合わせてたとえ短い時間であったとしてもお話しをする時を大切にしたいのです。「時」をよく用いなさいとエフェソの信徒への手紙、コロサイの信徒への手紙で聖パウロは教えてくれています。私たちはクロノスの世界を生きています。そしてカイロスというかけがえのない「時」があるということも聖書を通して神さまから教えられています。教会暦はそれを示すカレンダーです。かけがえのない時とは、換言すれば「もう2度と巡ってこない時」だと思います。たとえ小さな出来事だったとしてもその小さな出来事の中にかけがえのないカイロスがあることを心に留めながら今年1年間、日々大切に過ごして参りたいと思います。

どうぞよろしくお願いします。